私の高校生活

　私の高校時代は学校に行けなかった。しかし、それでも高校生活は楽しかった。

　何故高校生活を楽しむ事が出来たのか。それは、不登校だからこそ出来た事があったからだ。不登校だからこそ出来た事。それは、趣味のPCを全力で楽しめたからという点に尽きる。反面、私の高校生活、否私の人生で一番辛かった事は提出物の管理だ。学校のやりたくもない提出物に何度泣かされた事か。

　私の趣味はPCだ。PCは活力だ。PCなくして私の人生は有り得ないと言えるだろう。私は人生をPCという物体に依存した。しかし現在まで、その依存の結果は概ね幸福に満ちている。Linuxについての知識も深くなった。OSS(オープンソースソフトウェア)を作成し始めもした。

　私はOSSであるLinuxが好きだ。何故好きなのか。きっとそれは、内部のソースコードを読めるという安心感によるものなのだろう。Linuxを好きになったので、OSS文化の事も好きになった。

　私はOSSを作成している。きっと今後もOSSを開発し続けるのだろう。OSSを開発する中には、自分が不得意な事や苦手な事もやらなくてはならない事がある。現在の課題はそれだ。

　私は学校の提出物を提出するのが苦手だ。それは小学生の頃からそうだった。弱い部分が存在する自分の事を認める必要はあるだろう。しかし、解決しなければ社会生活が困難になってしまう。最近はレポートの提出という練習を行なっており、少しづつ提出している。この提出という行動から、OSS開発の精神に流用出来る部分があると信じている。

　私の人生の中心にあるのがPCだ。最初にPCを触り始めた時は小学五年生の時だったと記憶している。その時にPCを与えてくれた父に感謝を。不登校のじゃじゃ馬な自分を育ててくれた母に感謝を。最後に、自分を信じ壊れずに命令通りに動作をしてくれた私のPCたちに感謝を。